

八田與一像修復成る

皆川 榮治

<日本統治時代のインフラ整備>

日本では知らない人が結構多いのですが、戦前日本が台湾を統治しており僅か50年に過ぎませんでした。国家も経済もなかった台湾を法治国家につくり上げた事実があります。即ち、政治体制をつくり法律を定め、水力発電を起し鉄道を敷き農業や産業を興し教育制度をつくり上げ、その結果多くの台湾人たちが日本に対して好意的な人々が多くなったという事実です。逆に戦後台湾に入って来た外省人たちは戦前の日本統治を支持する台湾人を弾圧する一方で、戦後日米と協力して経済を発展させ、台湾の経済社会の高度成長を成し遂げるのですが、経済発展の背景には戦前の日本統治への台湾人たちの弛まぬ努力がその底辺にあったといえるのです。

戦前の日本統治時代、台湾総督府の為政者たちは多くのインフラ投資を行ないましたが、その代表格が台湾南部にある烏山頭ダムと言われる水力発電ダムです。工期は1920年から1930年までの10年間で、完成当時は東洋一の水力発電ダムと言われ、その結果農業用水は満たされ、水田が豊かに実ることになりました。

近隣の農家の人々はそれまで毎年のように台風が襲っては農作物の収穫被害に悩まされ続けていたのですが、このダムの完成で台風被害がなくなり収穫が安定し、大変喜んだのは言うまでもなく、完成後には感謝の印にこの計画を進めた八田與一の銅像をつくりたいと申し出たのですが、八田は断ったため、農民たちは八田に黙って銅像をつくり感謝の気持ちを表したのです。八田は戦中の1942年、フィリピン視察途上の船中、米軍の潜水艦攻撃に会い戦死しますが、この銅像は残り、戦後、蒋介石の命令で日本統治色のあるものは全て消去するよう指示された結果、消え去る運命にありました。しかし、水利組合の農民たちはこれをひた隠しに隠しこの銅像を守り、1981年以降ようやく政治的圧力が消えたとして陽の目を見るようになりました。今ではもとの烏山頭ダムのほとりに設置され、ダム全景を見つめています。

<銅像が切断される事件>

ところが台湾人にも日本人にも大切なこの銅像が2017年4月11日、台湾の心ない者の手で首を落とされるという事件が発生しました。犯人は台湾の親日傾向を嫌う右翼思想の持ち主で夜中の2時頃切断しそのまま胴体部分に乗せておいたと言うのですが16日には無くなっていたと言い、17日に警察に出頭し逮捕されました。

この事件を受け頼清徳台南市長はすぐさま行動を起こし、銅像の修復にかかり5月8日の八田與一慰霊祭の記念日前日には元の状態に復することが出来ました。5月8日の慰霊祭には例年より100人も多い約250人を集めた慰霊祭が行われ、市長を始め、八田與一のお孫さんの八田修一氏や八田氏の故郷である金沢市長も来台され、お祝いの言葉を述べられ、今年はいつもの慰霊祭を上回る意義の深い集りになり、八田氏への感謝を改めて顕彰する慰霊祭になりました。事件がより深く八田氏との関係を深め日台関係の深さと絆を改めて考え直す1日になったようです。

